溝 153SD・150SD 出土遺物

小碗

擂鉢

丸皿

区画溝 148SD 出土遺物

内耳鍋

内耳鍋（表）

内耳鍋（裏）

区画溝 123SD 出土遺物

瓦器の蓋

天目茶碗

溝 231SD 出土遺物

軒桟瓦

野添遺跡 22C 区からは、戦国時代から江戸時代前期にかけての屋敷地に伴う遺物が出土しています。屋敷地に関連する区画溝 148SD からは、内耳鍋をはじめとする鍋類が大量に出土しています。また、鍋類よりは少ないですが、碗や小皿などの陶器片も出土しています。

区画溝 148SD よりも新しい 153SD・150SD では、碗や小皿など 17 世紀ごろの遺物がまとまって出土しています。231SD も新しい時期の瓦と推察されます。また、北側の区画溝 123SD では天目茶碗が出土しており、この遺跡では数少ない天目茶碗です。

以前の調査では平安時代の遺構と遺物が発見されましたが、今回の調査区では平安時代の遺構や遺物はなく、戦国時代から江戸時代前期の遺跡であることが新たに判明しました。また、これらの遺構の埋土中から数点石器が出土しており、縄文時代以前の遺構が新たに発見されることが期待できます。

野添遺跡地元説明会

令和４年 10 月８日（土）

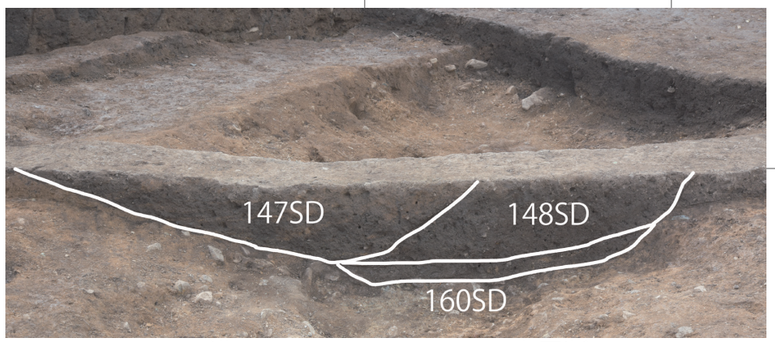
令和4年度　野添遺跡地元説明会資料

編集
配布

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
HP　http://www.maibun.com

〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24
電話（0567）67 - 4163【調査課】
Twitter　https://twitter.com/aichi_maibun
Facebook　https://www.facebook.com/maibunaichi

調 査 支 援　株式会社 アーキジオ
〒463-0021　愛知県名古屋市守山区大森1-2701　電話（052）799 - 8751



区画溝147SD・148SD・160SDの土層断面
北西から

掘立柱建物跡と区画溝の位置関係(左が掘立柱建物跡01、右が02)
北西から

掘立柱建物跡01の柱穴
南東から

凡例

- 区画溝(色が薄いほど古い)
- 溝(色が薄いほど古い)
- 遺構外形
- 未調査部分

0 5m 10m

野添遺跡22C区では、戦国時代~江戸時代前期(15世紀~17世紀)までの屋敷地が発見されました。この屋敷地は、外側を溝で区画しており、南側の区画内では掘立柱建物跡が2棟、北側の区画からは1棟検出されました。南側は、柱穴が大きくはっきりしており、柱を建てる際に埋めた土や柱を抜き取るときに埋まった土が良くわかります。

区画溝は何度も作り直されており、掘立柱建物との関係は、掘立柱建物跡02と区画溝148SDがもっとも古く、掘立柱建物跡01と区画溝155SDの関係が新しいと考えられます。北側の区画溝123SDと掘立柱建物跡03は、掘立柱建物02と同じ時期と想定されます。

区画溝とは別に直線上に伸びる溝がありますが、これらは、全く時期も性格も異なり、出土遺物から17世紀以降のものと考えられます。